

ひょうづの
医療

まぶたの筋肉緩み、垂れ下がる

老化と諦めずに相談を

「眼瞼下垂は病気だという認識を持って、気になる人は積極的に受診してほしい」と話す中内一揚医師＝西宮市武庫川町

神戸新聞社報道部医療・科学チーム「ひょうこの医療」係
〒650-8571（住所不要） ☎078・362・7045、FAX078・360・0629、メールアドレス iryou@kobe-np.co.jp

注目集める「部分切開法」
傷痕小さく時間も短縮

若い世代の患者が増加

せようとして、まぶたを閉じる筋肉群に信号が送られて強く緊張するようになり（眼瞼（いんらん））、まぶたは一層開きにくくなってしまう。そうした状態の患者は光を異常にまぶしく感じたり、昼間に強い眩光をもよおしたりすることがある。

さらに、約40本ある顔の表情筋のうち半分以上はまぶたの開閉にかかわっている。それらが緊張するため、顔のしわが増え、表情もわづらわしくなる。「眼瞼下

垂があるのと老けて見えるのはこのせいです」

眼瞼下垂の原因は、加齢やコンタクトレンズの長期着用のほか、一瞬さんばつけまつげ、(人毛をまつげに接着する)『エクステンション』や、アトピー性皮膚炎やアレルギー性結膜炎など、目や目の付近の皮膚の炎症で起こることも、また、目を開閉する筋肉を引っ張るために、緩みにつながります。一度緩んでしまった筋肉は元には戻らない」と指摘。こうしたこともあって、最近では若い世代に眼瞼下垂の患者が増えているという。

と指摘。こうしたこともあって、最近では若い世代に眼瞼下垂の患者が増えているという。